「伴走型支援の考え方」について

いつも大変お世話になっております。蓮田市障害者計画等策定委員の高木です。障害者計画に則り、精神保健福祉の社会資源を充実して頂き、誠にありがとうございます。特に、令和6年4月、のくぼ通り沿いに、「地域活動支援センターふれんだむ蓮田」を設置頂き、本当に嬉しく思っています。

さて、令和6年 11 月 30 日をもって、私の委員としての任期が終了致します。その前に是非、お願いしたいことがございます。蓮田市の福祉が充実してきていることは、間違いないと思います。しかし、私は蓮田市の福祉は「何かが違う」という違和感をずっともっておりました。

最近、私は WRAP(元気回復行動プラン)のファシリテーターとなりました。WRAP に大切な5つのキーコンセプトというものがございます。それは下記の 5 つです。

〇希望
〇自分で責任を持つこと
〇学ぶこと
〇自分のために権利擁護すること
〇サポート

この中のサポートをファシリテーションする中で、大きな気づきを得ました。それは、『これからの支援は「課題解決型支援」と「伴走型支援」の両輪が機能する必要がある』ということです。蓮田市の支援は「課題解決型」としては良く機能していますけれども、「伴走型」という点に関しては大変疎いのではないかと思うのです。

例えば、私がサポートを望んだ時、「他に何かお困りのことはありますか？」と訊かれます。私は自分が何に困っているかわからないので困っていました。その質問に、寄り添って、伴走してくれるという希望を持つことができなかったのです。蓮田市の精神障害者の多くが蓮田市の福祉に感じる閉塞感は、ここからきていのではないかというのが私の見解です。

既に計画等に組み込まれる予定等がございましたら、大変、失礼致しました。ただ、もしも、お気づきでないとしたら、下記をご参照頂き、配慮下さると幸いです。

https://www.mhlw.go.jp/content/000944690.pdf

蓮田市が「伴走型支援」の体制をとって頂けることを切に願います。
今後とも何卒宜しくお願い申し上げます。

令和6年 10 月 15 日(火)
障害者計画等策定委員　高木良文